

委託事業実施内容報告書

平成23年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

【ボランティアを対象とした実践的研修】

受託団体名 社会福祉法人 さぼうとにじゅういち

1. 事業の趣旨・目的

日本語教室において日本語等を指導するボランティアが、支援対象者である外国出身者に対する理解を深め、より配慮ある学習者との関係作りを目指すために必要なスキル、情報、知識を得ること。

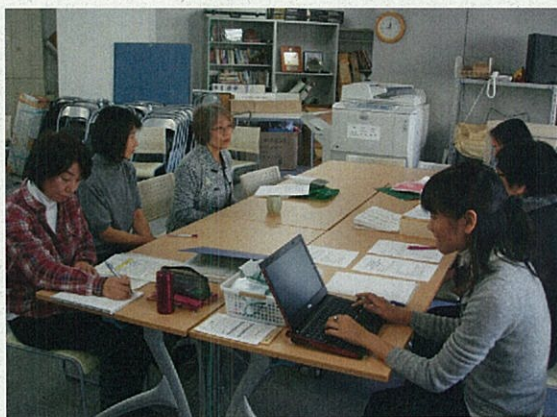
2. 運営委員会の開催について

【概要】

開催日時	開催場所	出席者	議題	会議の概要
4月28日 11:30-12:30	特定非営利 活動法人難 民を助ける 会 会議スパー ス	矢崎理恵 中村陽子 福田泉	・経費予定額 ・各担当者の役割 ・教授者選定の流れ ・開催日時	各担当者の役割、教授者 選定における留意事項、 開催日時など、全10回の 講座を運営する上で必要 となる基本事項の検討と共 有を行った。
7月8日 16:30-18:00	特定非営利 活動法人難 民を助ける 会 会議スパー ス	矢崎理恵 中村陽子 奥原淳子 福田泉 高橋敬子	・各担当者の役割 ・各講座の内容 ・講師との打ち合わせ ・最終回の講座内容	前回の運営委員会の内容 を共有し、各講座の内容や 形式についての方針を決 定した。
8月31日 14:00-17:00	特定非営利 活動法人難 民を助ける 会 会議スパー ス	矢崎理恵 中村陽子 奥原淳子 福田泉	・振り返り ・講座内容の検討 ・第3回講座フォロー アップ勉強会の内容	第1回～3回の振り返りを した上で、第4回～10回 の講座内容について話し 合った。勉強会までの準備 作業とその分担を決定し た。
12月10日 12:00-13:30	特定非営利 活動法人難	矢崎理恵 中村陽子	・第10回講座の進行 ・パネラーとの最終確	第10回はこれまでの講師 主導型とは異なり、全体を

	民を助ける会 会議スペース	奥原淳子 吉田早慧子	認	通して受講者参加型の講座であるため、運営委員、コーディネーター、パネラー、受講者の関わりが円滑に行えるように進行上の留意事項を確認し合った。
12月20日 12:30-14:30	特定非営利活動法人難民を助ける会 会議スペース	矢崎理恵 中村陽子 奥原淳子 吉田早慧子 福田泉 高橋敬子	・講座全体の振り返り ・事業完了後提出書類作成の分担	講座全体の振り返りを通して、本講座で達成できたこと、及び、課題について話し合った。それを踏まえ、今後の講座企画・運営に期待することを明らかにすることができた。

【写真】



3. 講座の内容について

(1) 講座名

「外国人支援ボランティア活動基礎講座」

平成23年度文化庁「生活者としての外国人」のための日本語教育事業
(ボランティアを対象とした実践研修)

(2) 開催場所

講義、実習共に以下において開催

特定非営利活動法人 難民を助ける会 会議スペース(さぽうと21事務所と同じフロア)

(3) 学習目標

外国出身者に対する理解を深め、より配慮ある学習者との関係作りを目指すために必要なスキル、情報、知識を得ること。

(4) 使用した教材・リソース

講師作成の資料

(5) 受講者の募集方法

・ウェブサイト

(さぽうと21、スリーエーネットワーク、日本語オンライン、東京ボランティア・市民活動センター ボラ市民ウェブ、日本語教育学会、中国・サハリン帰国者教育の指導者相互支援ネットワーク、東京都国際交流委員会)

・メーリングリスト

(東京日本語ボランティアネットワーク、埼玉日本語ネットワーク、なんみんフォーラム)

・電子メール

(さぽうと21ボランティア、過去の当団体主催講座受講生、品川区地域活動課、品川区協働・国際担当課、大田区多文化共生推進センター、関係者)

(6) 受講者の総数 39 人

(出身・国籍別内訳 全員日本)

(7) 開催時間数(回数) 25 時間 (全 10 回)

講義 19 時間 (10 回) 、実習 6 時間 (4 回)

(8) 参加対象者の要件

外国出身者対象ボランティア教室で日本語等の学習支援にあたっているボランティア
全 10 回参加できること

(9) 講座内容

回	開催日時	時間数	受講者数	講座名／学習内容	講師
①	7 月 23 日 16 : 00-18 : 30	2.5 時間	28 人	日本の在留制度 (1) ＜内容＞ 講義ビザ・査証・在留資格	小松原 祥一 行政書士 小松原事務所
②	7 月 30 日 16 : 00-18 : 30	2.5 時間	27 人	日本の在留制度 (2) ＜内容＞ 講義永住・帰化・事例紹介	小松原 祥一 行政書士 小松原事務所

③	8月20日 16:00-18:30	2.5 時間	27人	日本における福祉制度－外国出身者に焦点をあてて－ ＜内容＞ 講義 社会福祉の歴史・日本の社会福祉・福祉と外国人・ソーシャルワーカーの仕事・事例紹介	中村 紀子 元社会福祉法人 日本国際社会事業団 ソーシャルワーカー
④	9月10日 16:00-18:30	2.5 時間	23人	コミュニケーションスキルの獲得－「聴く」姿勢を養う－（１） ＜内容＞ 講義 演劇的手法を使ったワークのねらいとコミュニケーションの意味 実習 ワーク：共通点探し・相手をほめる・Walking・アイコンタクトゲーム・プレゼントゲームなど	かめおか ゆみこ 脚本家 かめわざ快心塾主宰者
⑤	9月17日 16:00-18:30	2.5 時間	21人	コミュニケーションスキルの獲得－「聴く」姿勢を養う－（２） ＜内容＞ 講義 演劇的手法を使ったワークのねらいとコミュニケーションの意味 実習 ワーク：ハートのワーク・ジブリッシュ・アニマルレッスンなど	かめおか ゆみこ 脚本家 かめわざ快心塾主宰者
⑥	10月15日 16:00-18:30	2.5 時間	25人	異文化コミュニケーション ＜内容＞ 実習 バーンガ異文化シミュレーション 討議 体験を通して「文化やことばが異なる人との共生」「マイノリティーの立場」など、異文化コミュニ	八代 京子 麗澤大学教授

				ケーションについて	
⑦	10月29日 16:00-18:30	2.5 時間	26人	外国出身者と支援者のこころの支援 <内容> 講義 在日外国人のメンタルヘルスのリスクファクター/心の病気・支援者の留意点・精神科外来の受診を巡って・外国人花嫁とその子どもへの心のケア	鶴川 晃 大正大学人間学部専任講師 多文化間精神医学会
⑧	11月5日 16:00-18:30	2.5 時間	25人	「わかりやすい」日本語 <内容> 講義 「やさしい日本語」で伝えるということ 実習 公文書の書き換えをする	庵 功雄 一橋大学留学生センター准教授
⑨	11月19日 16:00-18:30	2.5 時間	26人	義務教育の現場の外国出身者の現状 <内容> 講義 夜間中学の現状・外国から来た子ども等の現状と教育条件・夜間中学校での取り組み・今後に向けて	関本 保孝 墨田区立文花中学校 夜間学級教諭
⑩	12月10日 16:00-18:30	2.5 時間	25人	こんな日本語教室を <内容> 討議 ボランティア教室で学んだ経験者3名（日系ペル一人・パキスタン人・ビルマ人）の経験談・ボランティア教室や自身の活動を振り返る	MUHAMMAD MUJAHID 会社経営者 MYINT MYINT KHIN 主婦 YASUDA MONTOYA PERLA MAGALY 主婦

(10) 講座の評価

① 受講生に対するアンケート

各講座終了時にアンケートを実施し、受講者より評価・意見を聞いた。

以下に集計結果を記す。10回目は質問項目が異なるため、別途集計。

■ 第1回～第9回

(1)～(3)は選択式(5段階尺度)・(4)は記述方式。(1)講座の内容はわかりやすかったですか？

	大変わかり やすかった	わかり やすかった	どちらでも ない	わかり にくかった	大変わかり にくかった	計
1回	16	10	0	0	0	26
2回	15	11	0	0	0	26
3回	0	4	9	7	2	22
4回	14	6	0	0	0	20
5回	13	4	0	1	0	18
6回	16	3	0	0	0	19
7回	13	10	0	0	0	23
8回	4	10	6	0	0	20
9回	11	10	0	0	0	21
計	102	68	15	8	2	195
%	52.3	34.9	7.7	4.1	1.0	100.0

(2)講座で期待していた内容を得られましたか

	得られた	だいたい 得られた	どちらでも ない	あまり得られ なかった	全く得られ なかった	計
1回	12	12	1	1	0	26
2回	18	6	2	0	0	26
3回	1	7	5	6	4	23
4回	13	5	2	0	0	20
5回	14	4	0	0	0	18
6回	13	6	0	0	0	19
7回	10	11	2	0	0	23
8回	2	16	2	0	0	20
9回	7	15	0	0	0	22
計	90	82	14	7	4	197
%	45.7	41.6	7.1	3.6	2.0	100.0

(3) 講座はご自身の活動上/今後の活動上、有意義な内容でしたか

	大変有意義 だった	有意義 だった	どちらでも ない	あまり有意義 でなかった	全く有意義 でなかった	計
1回	10	12	4	0	0	26
2回	13	12	0	1	0	26
3回	2	7	9	4	1	23
4回	15	4	1	0	0	20
5回	14	4	0	0	0	18
6回	16	4	0	0	0	20
7回	11	11	1	0	0	23
8回	5	12	3	0	0	20
9回	10	9	2	0	0	21
計	96	75	20	5	1	197
%	48.7	38.1	10.2	2.5	0.5	100.0

(4) 特に関心をもったこと/役立ったことは何ですか。(各回から一部抜粋。原文のまま)

- 在留資格について貴重な知識が得られました。
- 在留資格が 27 もあるとは知らなかったので勉強になりました。
- 「永住と帰化」の項目。違いについて曖昧な知識しかなかったので、申請条件など相違点がよくわかりました。
- 様々なケースがあると感じた。
- 外国籍の人達が日本で生活することの現実の一部を理解しました。
- インドシナ難民の問題解決に関するケーススタディ。具体的なエピソードもふまえてお話いただけたので、具体的にイメージしやすかった。
- 体を動かしながら、講座を受けている方々とコミュニケーションをとることができとても面白い講座だった。Yes, No の考えがとても良いなあと思った。
- はじめての形の講義でしたが、楽しく心に響くものがあつた。人への接し方は自分の心持にあることを再確認できた。
- 言葉を使わないでコミュニケーションをとることの難しさ、少数派の場合、自分の意見を言うことの難しさ、短時間の中で自分の意見を説明する難しさに関心を持ちました。
- ルールは各々違うのだということ。学習者に接する時、改めて心したいと思います。
- SEGICAPS といううつ病を判断する基準を知ることができてとてもよかった。今までそんなに心の問題をキャッチしようという意識をせずに外国人の方と接していたが、キャッチできるヒトにならなければと思った。
- こころの病気を系統的に学べて良かった。
- 日本人側も話し言葉のレベルを下げる努力をするという考え方には新鮮さを感じました。

- 公的文書をわかりやすくするというのはかなり難しいことだと思った。また、「わかりやすい日本語」とは一体何なのか、今回の講座だけでは謎が深まったなあというのが本音です。結局、わかりやすいというのは“誰にとって”というのがあってはじめて決まるのかと……。
- 夜間中学の数があまりにも少なくて驚いたのと同時に、国際化している現状と矛盾していてもどかしい気持ちになりました。ボランティアという立場ですが、少しでも何かお役に立てたらと思います。
- 夜間中学校については全然知らなかったので、お話を伺えてよかったです。外国の方だけでなく日本人にもとても必要な教育現場だと思いました。

■ 第 10 回

Q.ボランティア同士のディスカッションはどうでしたか？

大変 有意義だった	有意義だった	どちらでもない	あまり 有意義でなかった	全く 有意義でなかった
13	9	1	0	0

Q.全体の進め方はどうでしたか？

大変よかった	よかった	どちらでもない	あまり よくなかった	全くよくなかった
11	13	0	0	0

Q.内容はご自身の活動上/今後の活動上、有意義でしたか？

大変 有意義だった	有意義だった	どちらでもない	あまり 有意義でなかった	全く 有意義でなかった
15	6	3	0	0

■ 全体を通して(全てを記載。原文のまま)

全 10 回を通じての感想に加え、印象に残った回や内容があれば、その理由も含めてお書きください。

- 10 年目の節目。多岐に亘る話題、研修項目は刺激的だった。
- 全部ためになりましたよ！いろんな目線から学習することができました。ありがとうございました。
- 在留資格。やさしい日本語。
- たいへんよくコーディネート、準備されています。どうもありがとうございます。今後も機会があれば参加したいです。
- 日本語以外のそれぞれの分野の専門家のお話がきけたことがとてもよかったです。個人的にはかめおかさんのワークショップ(2 回)がとても楽しかったです。ありがとうございました

た。

- 1回目
- 通常ボランティア研修というと、日本語教育・異文化コミュニケーション・国際理解の分野の話が多いが、多分野から講師の方がいらっしゃり、良かったと思います。
- 各回共、興味のある内容を企画され、大変有意義でした。日本語教室のまがり角にあたっている現状を打破できるよう力をいただきました。
- 夜間中学の関本先生には今まで知らなかった義務教育の現状を、熱意をもって教えていただくことができ、大変感謝しております。
- 座学ではなく参加型の講座の方が印象に残りました。
- 勉強になることがたくさんありました。ふだんさぼると21にはいらっしゃらない方々とも交流することができ、有意義な研修でした。
- 夜間中学での日本語教育の現状と内容が印象に残りました。現実に関わっている日本語教育に比べ、ずっと直接的に人生や生活に結びついているので。
- 最初、10回は多いなあ・・・と正直思っていたのですが、始めてみると、あっという間でした。夜間中学のお話が印象に残っています。
- かめおか先生のワークショップ。コミュニケーションをはかる上でたいへん役立った。
- どれも大変興味深かったのですが、特に勉強になったのは第1,2回の日本におけるさまざまな外国人に関わる政策、法律についてです。これはボランティアとしても、また、今の仕事にも必要な知識なので本当に役に立ちました。
- 在日の資格にどんなものがあるか勉強になった。
- かめおかさんのワークショップ。人間が大きくなる。
- やさしい日本語がむずかしいことがわかった。
- かめおか先生の傾聴の講座がとてもよかった。
- コミュニケーションの仕方。特に言葉によらない方法は参考になった。相手の表情を観察すること。

② 実施主体からの研修内容結果評価

アンケートの数字からも研修内容が有益であったことが示された。また、コメントからも、目標とした「支援対象者がおかれている状況やそれに関わる施策や課題、そして、支援対象者や、共に支援の現場に携わる者同士の相互理解やネットワーク構築に寄与するスキルや情報の提供」が十分達せられたものとする。

目標達成につながったポイントとして、以下に三点挙げる。

まず、バラエティがあり、かつ、バランスのとれたテーマが選択できたことである。外国出身者を支援しようという場合に知っておきたいことはどんなことか、基本に立ち返りテーマを設定した。その結果、受講者からも「いろんな目線から学習することができた」「多分野から講師の方がいらっしゃり良かった」と、テーマ選択に関して好評を得ることにつながった。

二つ目は、テーマに合った講師に巡り合えたことである。多様で幅広いテーマであったが、人的・物的リソースを最大限活用し、各分野で熱心に活動されている講師をお呼びすることができた。講師との事前の打合わせは労力を要するが、スタッフ間の役割分担が適切に行われたことにより効率的に進められた。

三つ目は、講師やスタッフとのコミュニケーションが適切にとれたことを挙げたい。研修をより充実させるためにはどのような形式・内容が最も効果的か、講師・スタッフ間で綿密な話し合いを行った。これにより、受講者の背景や要望に沿った形で研修を展開することが可能となった。

一方、課題も残った。

受講者は非常に熱心に研修に臨み、講師からも講座が大変進めやすいという評価であった。

ただ、開催場所が受講者の多くが所属する施設であったこと、また、開催時間がボランティア活動の後であったことなどから、気持ちの切り替えがスムーズにいかない受講者もわずかながら散見された。

開催場所が普段の利用施設の場合、時間や立地からみると利便性は増すものの、集中力の維持という点では検討の余地を残した。

また、多くの受講者に参加いただいたが、大学生をはじめとする若い世代の参加がなかったことは非常に残念であった。支援活動では活躍している学生も少なくないので、このような研修にもぜひ参加してほしいものである。広報の方法なども併せ、次回の課題としたい。

最後に、受講者のモチベーションをさらに上げる方策として、参加者主導の研修も検討したい。ニーズに応えるという点からも、主催側による企画立案・実施といった一方向の内容/形式でなく、受講者自身が問題点を発見し、解決の方策を探るといった主体的・自発的な参加の仕方も新たな形式として考えてみたい。

③ 実施主体からの外国人支援体制等今後の計画

実施主体である社会福祉法人さぼうと21は、今後も従来通り、日本に定住する難民、日系人、中国帰国者等の支援を続けていく。その中心が「相談事業」「生活支援事業」「学習支援室運営事業」であることに変わりはない。各事業の充実はもちろんであるが、それぞれの事業が連携をはかり、より有益な支援を続けていくことが今後の課題である。

「学習支援室運営事業」については、その活動の中心は、教室に通う外国出身者とボランティアであり、彼らのニーズをしっかりと把握し、それに応えた勉強会や研修、ディスカッションの場、体験の場を設けていきたい。当法人では、毎年、ボランティア向けに、日本語教授法だけでなく、受講者との人間関係の構築、日本にいる外国出身者の背景、環境などを学ぶことのできる研修を企画運営してきているが、研修が回を重ね、年数を重ねることで、単発の研修、一年限りの研修では得られなかった深い学びがあることを実感する。その意味で、やは

り、こうした研修会を「継続して実施」していくことの意義は大きい。外国人をすぐ身近な場所で支援するボランティアの成長は、外国人支援を旨とする団体として、最も大きな力であり、今後も有意義な勉強会や研修を続けていける体制を整えていきたい。

(11) 事業の成果

① 他事業との連携

社会福祉法人さぽうと21では、先に述べたとおり相談事業、生活支援事業なども行っているが、今回の研修では、講師選定の段階で、その方面でのネットワークが活用された。今回の研修を通じて、外国人支援にあたる各方面の専門家と連携を図れる素地ができたことは、今後の事業展開に大きな意義がある。

また、今年度実施している文化庁委託事業の日本語教室参加者の中の一名に、パネルディスカッションへのご協力をいただいた。

② 研修後の人材活用

研修を通じて多くのボランティアが、支援対象の外国出身者の抱える問題を多方面から学ぶことができた。また、ボランティア活動そのものについて、参加者相互で多くを学び合うことができた。今後の活動にさらに意欲的に取り組めるという感想も多く聞かれた。外国人支援にあたる各現場において、今回の学びが十分に生かされると確信する。

(12) 今後の課題

さぽうと21の学習支援室においては、より複雑な在日経緯をもつ未成年者等を数多く迎えることとなろう。子どもたちの自国での教育環境や家庭・学校・子どもの関係、また同時に日本での彼らのおかれた家庭や学習の環境などを学ぶ必要に迫られている。

今回の研修会の中でも、夜間中学の取り組みなどを知り、その問題に大きな関心が寄せられており、「小中高生」の日本語支援、学習支援のあり方について考えることのできる勉強会や研修を今後積極的に行っていきたい。

また、本研修の事業計画でもふれたが、今回の一連の研修が、外国人支援に携わろうとする行政や団体の担当者の、オリエンテーション的役割を果たすにふさわしい内容であることを、実際に研修を終了して感じている。外国人支援団体や行政の新入職員向けの「外国人支援活動入門講座」の一例としてとらえていただけるよう、研修内容をホームページ等で紹介していきたいと考えている。